日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	基礎演技Ⅲ

科目基礎情報

開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期	前期
対象年次	１年次	科目区分	必修	時間数	105
単位数	３単位	授業形態	実習		
教科書/教材	必要に応じて随時、課題のテキスト及び台本配布				

担当教員情報

担当教員	笹倉舞・磯辺万沙子・西久保治好	実務経験の有無・職種	有・俳優　女優　演出家

学習目的

この科目を受講する学生は実習を通じて、他の学生と接し、作品を作り上げる過程でコミュニケーション能力を向上させ、身体的表現の多様性を身に着け、精神的、肉体的に成長することができる。他人を思いやり、共に協力し、粘り強く目的を達する事を可能にする人間力も身につく。これらの能力は演劇界・芸能界にとどまらず、他の業界、他業種においても活用され、他者とのスムースな交流を可能にする。実社会において人間関係を良好に保つ事は非常に重要である。この科目を受講することでそれらの能力も向上する。

到達目標

学生は発声法・滑舌はもとより、表現の内容が他者（観客）に正確に伝えられる技術の基礎を身に着ける。俳優としてチームの中で、リーダーシップを取り、作品作りへの新鮮なアイディアを開いた思考の中から想像力を広げ、提案できる実力をつける。そして、肉体と心そして言葉が繋がり、リアリティーのある言葉と説得力ある台詞を伝えることができる俳優となることを目標とする。

教育方法等

授業概要	俳優としての技術能力の向上を目指す。そして、基本を大切にした授業を行う。演劇は共同作業であることから、作品を作り上げて行く過程で生ずる、様々な問題を、お互いの立場を尊重しながら解決していく方法を学ぶ。演劇を学ぶ事を通して、個人的にも集団的にも、尚且つ肉体的、精神的に成長したしたことを実感できる授業を目指す。
注意点	学生、教員がお互いを尊敬しあい、和やかに、かつ礼儀正しく行われることを基本とする。理由なき欠席・遅刻は認めない。携帯電話、スマートフォンの電源は切る、私語は慎む等、社会の常識的な行動は常に意識すること。課題には積極的に取り組むこと。社会性無いものは役者としても大きな欠陥があることを理解すること。成果も大切だが、取り組む姿勢を最も大事にしなければならない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　考
	試験・課題	40%	自己の能力をどれだけ高められたかを評価する
	平常点	30%	授業態度、授業参加の積極性を総合的に評価する
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内の発表における取組方等を総合的に評価する

授業計画（１回～１５回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	俳優に必要なものは（1）	ストレッチ等、基本の必要性を理解する
２回	俳優に必要なものは（2）	呼吸等、基本の必要性を理解する
３回	俳優に必要なものは（3）	発声等、基本の必要性を理解する
４回	俳優に必要なものは（4）	母音法等、日本語の仕組みを理解する
５回	劇的ということは	台詞の持つエネルギーを感じてみる
６回	台詞とは	選び抜かれた言葉、日本語の美しさを理解する
７回	表現とは	台詞を発するために、今、自分に何が必要かを理解する
８回	自己を解放する	言葉のエネルギーを利用し、役のなかで自分を解放することを理解する
９回	伸びやかな表現とは	人を惹きつけ、観客を意識した表現を理解する
１０回	自由な発想	情景描写表現に必要な想像力について学ぶ
１１回	戯曲について（1）	短編台本を用いコミュニケーションの楽しさ、難しさを理解する
１２回	戯曲について（2）	短編台本を用い相手がいるときの台詞の必要事項を理解する
１３回	戯曲について（3）	短編台本を用い動きの中で、なぜこの言葉が生まれたのか、言葉の必然と動きの必然を考える
１４回	戯曲について（4）	短編台本を用い言葉や感情の裏側を理解し、必然と偶然を盛り込んで演技の奥行きを広げる
１５回	戯曲について（5）授業内発表	短編台本を用い感情表現を工夫しながら発表することができる